

連載第7回

京大植物園観察会

■第43回 観察会のお知らせ

日時:10月20日(金)12:05~12:55

『植物園を含む京大北部キャンパスの地形見学と花
折断層』

植物園前に集合してください。

第41回京大植物園観察会レポート 2006年8月26日(土)10:00~12:00 晴

テーマ『植物園と吉田山』

案内人:土屋和三(龍谷大学文学部・里山ORC) 報告:大石高典(京大理学研究科動物学教室)

今回は、生態植物園として管理されてきた京大植物園の多様な植生景観を念頭に、今出川通りをはさんで京大植物園のすぐ南にある吉田山(京都市吉田山公園)の植生を観察し、地域の在来植生、人間生活の変遷とこれからについて思いをめぐらせました。観察会は、まず京大植物園の入り口前から始まりました。植物園には、琵琶湖疏水を引き込んだ池があります。この水系の存在が、園内の環境と生息する生き物に多様性を生んでいると言えます。土屋さんが学生だった頃は、植物園は駆け出しの植物学徒にとって、身近にさまざまな植物を毎日見続けることができる貴重な場所だったそうです。多くの研究者が、ここで発芽、開花、展葉、結実、繁殖などといった植物の「生活」を観察し、それを通じて植物に対する「カン」を磨き、それから日本各地や海外のフィールドでの研究に取り組んでいったのです。



展望台にて議論▲



吉田山は広い!▲

さて、吉田山では、尾根筋のアカマツ(マツ科)や山腹のコナラ(ブナ科)の衰退とともに、アラカシ(ブナ科)、スダジイ(ブナ科)、アカシデ(ブナ科)が復活してきています。アラカシは、ネパールや東南アジアの水田地帯でも広く見られる照葉樹林帯の代表的な樹木です。アラカシやスダジイ植生の回復は、吉田山に限らず、京都盆地周辺至るところで発生していますが、これは、この地域に人間が住み始めて以来おそらく初めての歴史的なできごとです。土屋さんは、1968年に京大農学部に入學されましたが、当時の吉田山はもっと明るかった、と言います。当時は、大きなギャップ(林冠の開口部)があちこちにあり、山頂からは見晴らしがききました。アカマツも今よりも本数が多く、また元気だったそうです。

観察会当日は真夏の炎天下にも関わらず40人近い参加があり、これらの方々が2時間以上もの間、熱心に話を聞いてくださいました。土屋先生からのお話を受けて、参加者の間

で、吉田山の今昔や、里山管理に関する議論が行われました。その中で、参加者の中から、吉田山の近くに長年住んでおられる服部泰夫さん(同志社大学人文科学研究所嘱託研究員)が、約50年前に吉田山で子供どうして写生大会をしたり、“好い場(すいば)”として遊んだ思い出を語っていただきました。服部さんから『植物園と吉田山』に参加して、と題する感想文をいただきましたので、以下にご紹介して報告を終わりたいと思います。

「植物園と吉田山」に参加して

8月25日、妻と「京大植物園を考える会」観察会に参加した。参加者約50名。講師は竜谷大・土屋教授。吉田山は「京都市の地名」(1979年・平凡社)p.141では標高102.6米の丘となり、「京都大事典」(1984年・淡交社)p.961では標高102米とある。また、「史跡探訪 東山三十六峰」(1978年・京都新聞社)p.71では、標高120米たらずとある。ついで「国土地理院三角点情報」では標高105.11米とあり、山籠広場三等三角点では標高105.12米と記されている。インターネットの「京都府カテゴリー」では左京区吉田山は南北800米、東西300米の細長い孤立丘である。



1978年以前の吉田山から見た時計台

周囲より約50-60米程度突出しており、丘は南方へ傾斜し、最高点は北端部の125米で、今出川通に面して急崖をなして終わっていると表示されている。

私は51年間吉田山のふもとの浄土寺馬場町に住んでいる。子供のころは「秘密のどんぐりの宝庫」を北東部の崖の上に持っていた。今の山頂広場の北側である。旧制三高の「紅萌ゆる碑」が建てられた48年前は岡崎中学生であった。其のころは仲間とよく写生会に行ったものである。京大工学部の建物が続々と建設された50年前は時計台を始めとする京大の全景が一望のもとであった。(写真:右「史跡探訪 東山三十六峰」p.76)今は何も見えない。土屋教授も言っておられたが、吉田山を真に市民の憩いの里山にするためには樹木の刈り込みと柴の活用が必要であろう。今の状況では、市民の一人歩きも少し警戒される雰囲気である。私はこの観察会に36回の「北部の春」から参加している。学問の府、京大と市民の貴重な接点である機会をこれからも続けて行かれることを切望します。

8月の観察会でとりあげられた植物たち

木本:

チチャンチン(センダン科)、チャンチンモドキ(ウルシ科)、ユリノキ(モクレン科)、ヒマラヤスギ(マツ科)、シナユリノキ(モクレン科)、サカキ(ツバキ科)、アオキ(ミズキ科)、カナメモチ(バラ科)、アラカシ(ブナ科)、コナラ(ブナ科)、スダジイ(ブナ科)、アカシデ(ブナ科)、アカマツ(マツ科)、クサギ(クマツヅラ科)、ナナミノキ(モチノキ科)、タマミズキ(モチノキ科)。

草本:

ネザサ(イネ科)、ベニシダ(オシダ科)。

京大植物園を考える会 <http://members.at.infoseek.co.jp/bgarden/>
京大植物園のブログができましたので覗いてみてください。
京大植物園TODAY (<http://blog.goo.ne.jp/bgfanclub/>)

| ひとつまえにもどる |